

ほっとけい会会報  
HOTKEY  
韓国旅行特集



朝鮮王朝の宮殿「景福宮」の南正門が光化門。格好いい衛兵は観光客の人気の的だ

東日本大震災の被災地を訪ねてから9カ月余。「ほっとけい会」メンバーは6月下旬、活気にあふれる隣の韓国へ「アンニョン ソウル」の旅に出掛けた。梅雨入り前のソウル周辺は30度を超す猛暑続き。その炎天下を55キロ、6万9千歩を踏破し、伝統文化と本場の焼き肉、海鮮、野菜料理を堪能する一方、目の前に広がる北朝鮮の農村地帯を眺望してきた。5日間の訪韓レポートを特集した。

アンニョンソウルの旅

▼楽しかったよー  
帰宅して英国留学から帰省中の孫娘ら家族から「どうだった」と聞かれると、「きょう(帰ってきた日)は午前4時起き。少し疲れたけれど、すごく楽しかったよ」「良かったねー」のやり取りを繰り返した。  
今回のプランナーは荻莞さん。父親の勤務の都合で小学2年から2年間でソウルで過ごした経験と、今も須坂でハングルを学んでいる韓国通。「カンちゃんの家内で韓国に行きたい」という願いが実現したが、私にとって7度目の訪韓。  
共同社会部で当時の防衛庁担当の時に2回、南北境界線の在韓米軍や板門店を取材、定年後の都市ガス専門紙在職中にエネルギー事情などの取材で2回。1昨年9月、娘夫婦が喜寿祝で同行してくれて以来、観光目的は3回目。



西大門刑務所跡の歴史博物館

▼贖罪の思いも  
印象に残ったのは、地下鉄を乗り継いで訪れた「西大門刑務所跡」の歴史館。日本の植民地政策下に女性

を含む多くの独立運動家らが投獄された。寒々とした独房や獄舎、さらに死刑場や死体を搬出した秘密通路などがリアルな模型を交えながら再現され、日本帝国主義の弾圧の実態を生々しく今に伝える。生存した運動家らの肉声証言が流され、生命を絶たれた人々の何千枚の写真も壁面いっぱい。  
この刑務所は25年前に移転後、国家史跡に指定され、歴史館になった。「拷問室」などを見ると、日本人として贖罪の思いが胸に去来する。  
▼旅の恥はかき捨て？  
ホテルに近い往十里(ワシムニ)の駅ビル内にある大浴場には2回入浴に。日本の温泉などにはシャンプー類が必ずあるのに、ここでは見当たらない。と、小さなカゴにシャンプー一式があった。「ここにあったよー」と、当たり前のように遠慮なく3人で使った。  
ところが大違い。富信さんが中年の男性に荒々しくカゴを取り上げられ、「怒られちゃったー」と。どうやら個人専用のシャンプーと判明、「この日本人の奴がー」と思われたようだ。どうもすみませんでした。  
▼最高は久貝さん



韓国の英雄、李舜臣銅像前の噴水公園で

2日目の夜、飲み屋をハシゴした後はお定まりのカラオケへ。  
日本の観光客もよく利用するようで、ソウルでは随所にある。日本式の個室が地下の両側にずらり。日本の演歌などもたくさんあって、1曲終わるたびに点数が表示される仕組み。酔って高吟の誰かさんは47点となかなか厳しい。  
この夜の最高点はやはり久貝さん。92、94、96と点数が上昇一途、ついに情感あふれる「悲しい酒」で98点。機械も同情したのか男3人もそれぞれ90点を記録。ソウルの夜は遅く、長かった。  
(八幡 裕隆)